

歯学様式 6 号〔論文内容の要旨（1 枚目）〕

診査基準の相違による学校歯科検診結果にもとづく有病状況への影響について	
	川崎信行
<p>イギリスと日本の学校検診の基準差に着目して、N県下のある小学校の学校検診において、同一の児童集団を対象として、英国の学校歯科検診に用いられている歯科診査基準（以下、BASCD）と日本学校歯科医会（以下、日学歯）の診査基準の両方で、口腔診査を行い、診査結果をもとに有病状況に関する指標を比較した。</p> <p>今回診査を行った小学 5, 6 年生 302 名の永久歯 6295 のうち、BASCD で要処置歯とされた歯数 16 本であったのに対して日学歯で要処置歯とみなされた歯数 148 本とその差は 9 倍以上であった。本研究の結果は、英国では健全歯あるいは指導・観察の対象とされる歯の多くが、日本では未処置歯とみなされ治療の対象にされている可能性があることを示唆していると同時に、日学歯の診査結果は BASCD には反映されないという蝕罹患傾向を反映させやすいといえる。また、診査基準はそれぞれの国における事後の指導や対応のあり方を反映していると考えられる。</p>	